

高校生 研究成果を披露

崇城大 科学発表会に九州28校

熊本市西区の崇城大が7月30日、高校生による科学研究発表会「サイエンスインターハイ@SOJO」を開いた。高校生に発表の機会を提供し、研究意欲を高めてもらおうと実施しており、8回目。九州6県の28校から参加した約800人が、自然科学分野での研究成果を披露した。

会場の池田キャンパスに各校の研究をまとめたポスターが掲示され、生徒たちが多彩なテーマの研究内容を説明。崇城大の研究者が審査した。

102点の発表の中から最優秀賞には、光と凸レンズがつくる「副実像」に関する研究に取り組んだ宇土高（宇土市）が輝いた。準グランプリは大分上野丘高（大分）と鞍手高（福岡）。

鉄の特性について発表した熊本北高理数科3年の中島蒼太さん(18)は「他校の生徒や審査員の先生が研究を評価してくれるのがうれしかった。他校の研究も面白いテーマがあり、刺激になった」

崇城大が開いた「サイエンスインターハイ@SOJO」で研究内容についてポスター発表する高校生ら＝熊本市西区



と話した。

「最先端科学ウォッチング」と題した特別講演会も実施。分析化学の権威の早下隆士・元上智大学長と、医薬品の試験に微小生物を有効利用する研究に取り組む崇城大の徳富直史教授が、ナノテクノロジー（超微細技術）などについて紹介した。

（隅川俊彦）